

手話言語条例に関するアンケート調査 報告書(当事者)

2026 年 5 月

東京都町田市

第1章 調査の概要	P2
第2章 アンケート回答	
1. 回答者の属性	
(1) 回答者の年齢	P3
(2) 家族等との同居の状況	P4
(3) 同居する家族等の聴覚障がいの状況	P4
(4) 耳が聞こえなくなった年齢(年代)	P5
(5) 耳が聞こえない、聞こえなくなった理由	P6
(6) 手話による会話の状況	P6
2. 手話で会話する方を対象とした設問	
(1) 手話を覚え始めた年齢(年代)	P7
(2) 手話を覚えた(身につけた)場所・機会	P8
(3) 手話を覚えた(身につけた)理由	P9
(4) 家族と会話するときの会話方法	P10
(5) 家族以外と会話するときの会話方法	P11
3. 手話で会話しない方を対象とした設問	
(1) 家族と会話するときの会話方法	P12
(2) 家族以外と会話するときの使う会話方法	P13
(3) 手話で会話しない理由	P14
4. 共通設問	
(1) 耳が聞こえないことで困る場所	P15
(2) 耳が聞こえないことによる困りごと	P18-21
(3) 期待する情報保障(手話・文字情報など)の対応	P20
(4) 法律や条例の認知度	P21
(5) 手話言語条例を通じた地域社会づくりへの期待	P22
(6) 取り組みに対するご意見	P23-29

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

市では、聴覚障がいのある方とない方の日常生活における意思疎通の場面をはじめとしたバリアを解消し、聴覚障がいのある方とない方の相互理解のもと、誰もが自分の役割や活躍の機会を得られる共生社会の実現を目指すために、(仮称)町田市手話言語条例(以下「条例」)の制定に向けて、検討部会を設置して検討を開始しています。

本アンケート調査は、条例の条文を検討するにあたって、聴覚障がいのある方の生活の状況や意識を把握することを目的として実施したものです。

2. 実施期間

2026 年 2 月 1 日(日)～2 月 20 日(金)

3. 調査方法

- (1) 郵送による回答(調査票を同封の返信用封筒に入れて回答)
- (2) Web フォームによる回答

4. 対象者

市内に在住する身体障害者手帳 聴覚障害 部位別等級 2 級・3 級の認定を受けた方

5. 回収率

調査対象者数	545 人
回答者数	249 人
回答率	45.7%

6. 報告書の見方

- (1) 調査結果について、構成比を表すグラフまたは集計表の場合、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。したがって、数値の合計が 100.0 パーセントにならない場合があります。
また、個別の設問において無回答のような無効の回答がある場合に、回答数の合計と回答者数が一致しない場合があります。
- (2) 複数選択が可能な設問の調査結果を集計したグラフまたは集計表の場合、全ての回答数を合計すると回答者数を超える場合があります。
- (3) 本文やグラフ・表の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化しています。
- (4) 自由記述のご意見は、類似の意見を要約して掲載し、個人情報が特定される恐れのある意見は非掲載としています。また、選択肢に含まれる回答は掲載を省略しています。

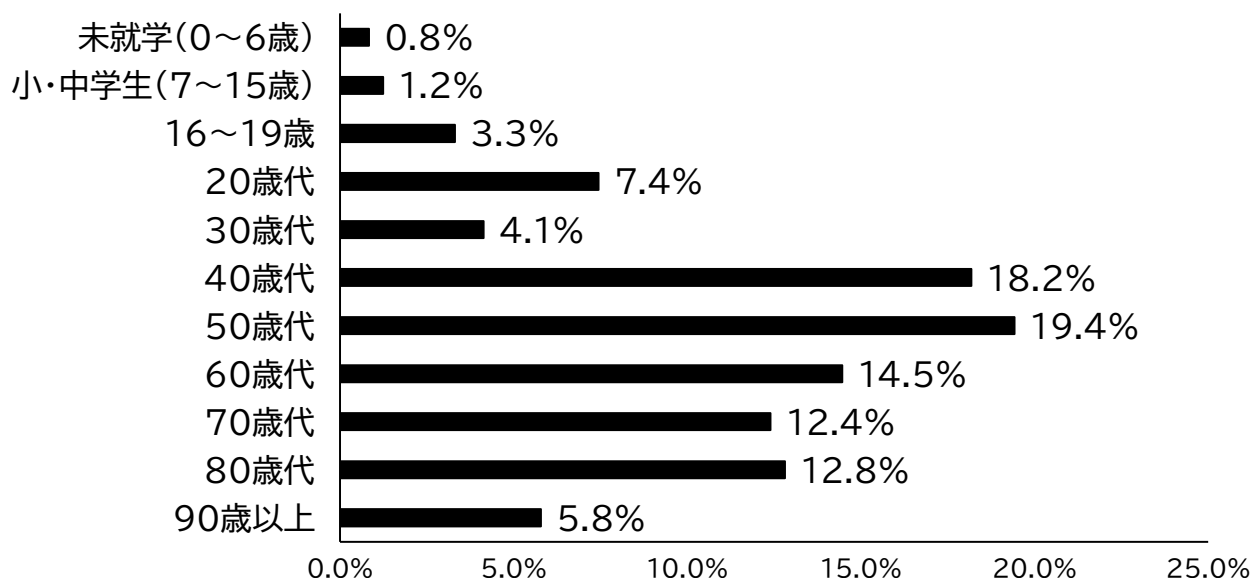
第2章 アンケート回答

1 回答者の属性に関する設問

(1) 回答者の年齢

問1 あなたの年齢(年代)を教えてください。

結果のポイント 回答者の年代は50歳代が最も多く、40歳代～60歳代が回答者の過半数(約52%)を占めている。



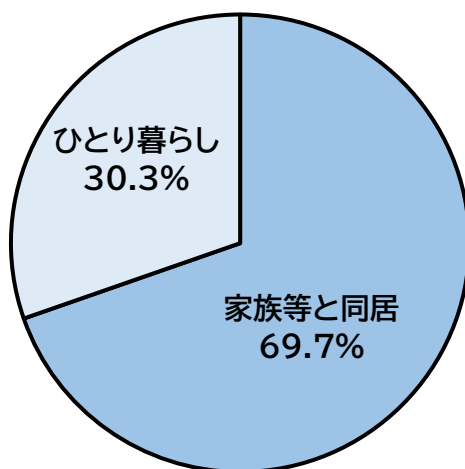
回答の選択肢	件数	%
未就学(0～6歳)	2	0.8%
小・中学生(7～15歳)	3	1.2%
16～19歳	8	3.3%
20歳代	18	7.4%
30歳代	10	4.1%
40歳代	44	18.2%
50歳代	47	19.4%
60歳代	35	14.5%
70歳代	30	12.4%
80歳代	31	12.8%
90歳以上	14	5.8%
計	242	100.0%

(2) 家族等との同居状況

問2 あなたと同居している家族等の状況を教えてください。

結果の
ポイント

回答者のうち、家族等と同居している方が約 70%を占めている。



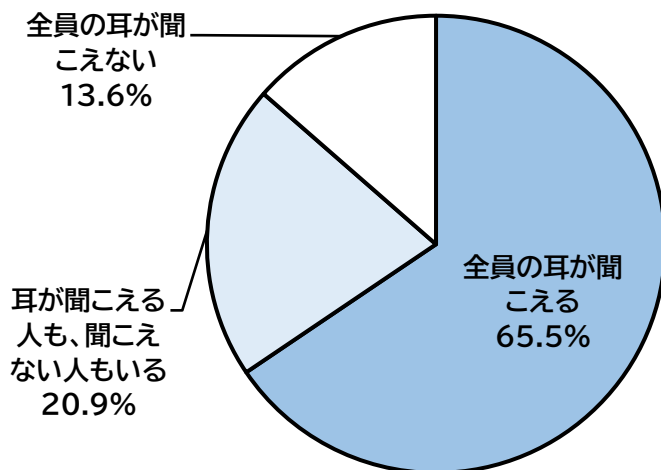
回答の選択肢	件数	%
家族等と同居	163	69.7%
ひとり暮らし	71	30.3%
計	234	100.0%

(3) 同居する家族等の聴覚障がいの状況 ※問2で「家族等と同居」と回答した方のみ回答

問3 家族等の中で、耳が聞こえる人、聞こえない人の構成を教えてください。

結果の
ポイント

「全員の耳が聞こえる」が最も多く、65.5%を占めている。

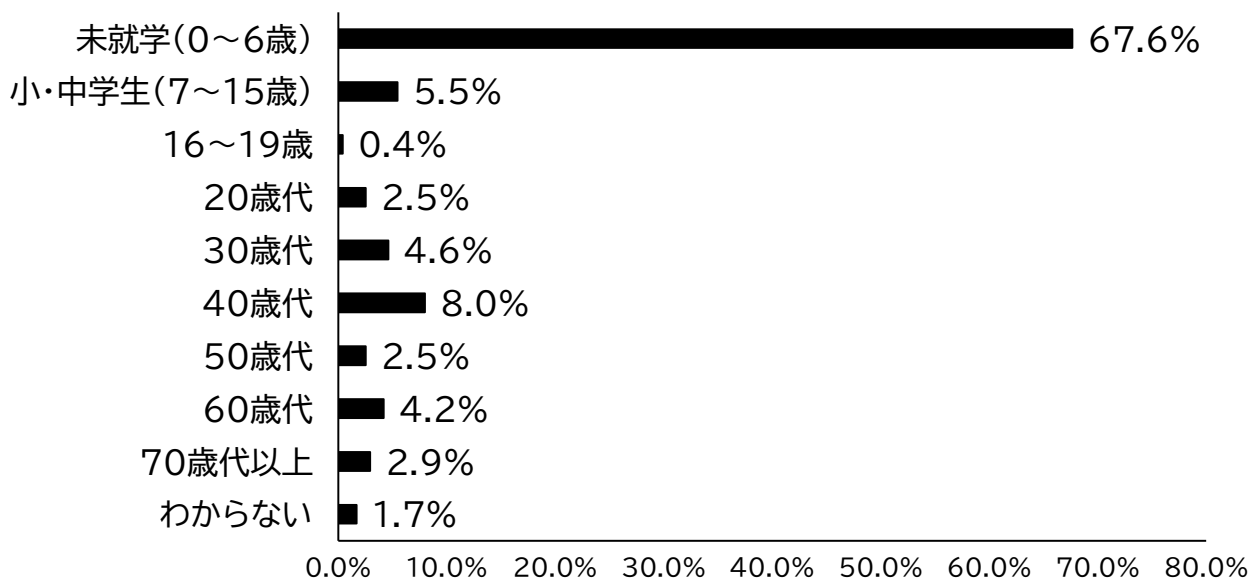


回答の選択肢	件数	%
全員の耳が聞こえる	116	65.5%
耳が聞こえる人も、聞こえない人もいる	37	20.9%
全員の耳が聞こえない	24	13.6%
計	177	100.0%

(4)耳が聞こえなくなった年齢(年代)

問 4 あなたの耳が聞こえなくなった年齢(年代)はいつごろですか。

結果のポイント 「未就学(0～6歳)」が最も多く、67.6%。
2番目に「40歳代」が多く、8.0%となっている。

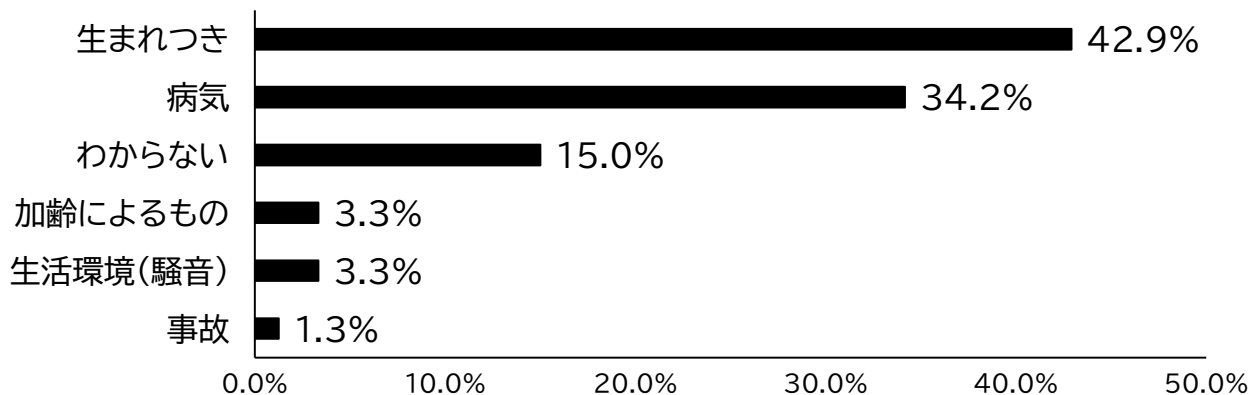


回答の選択肢	件数	%
未就学(0～6歳)	161	67.6%
小・中学生(7～15歳)	13	5.5%
16～19歳	1	0.4%
20歳代	6	2.5%
30歳代	11	4.6%
40歳代	19	8.0%
50歳代	6	2.5%
60歳代	10	4.2%
70歳代以上	7	2.9%
わからない	4	1.7%
計	238	100.0%

(5) 耳が聞こえない、聞こえなくなった理由

問5 あなたの耳が聞こえない、聞こえなくなった理由は何ですか。

結果のポイント 「生まれつき」が最も多く42.9%。
2番目に「病気」が多く、34.2%となっている。

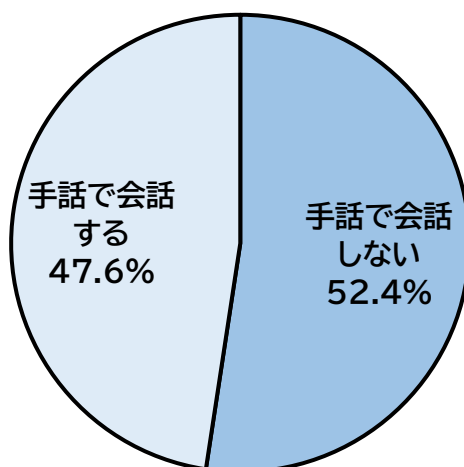


回答の選択肢	件数	%
生まれつき	103	42.9%
病気	82	34.2%
わからない	36	15.0%
生活環境(騒音)	8	3.3%
加齢によるもの	8	3.3%
事故	3	1.3%
計	240	100.0%

(6) 手話による会話の状況

問6 あなたは手話で会話しますか。

結果のポイント 回答者のうち、手話で会話をしない方が過半数(約52%)を占めている。



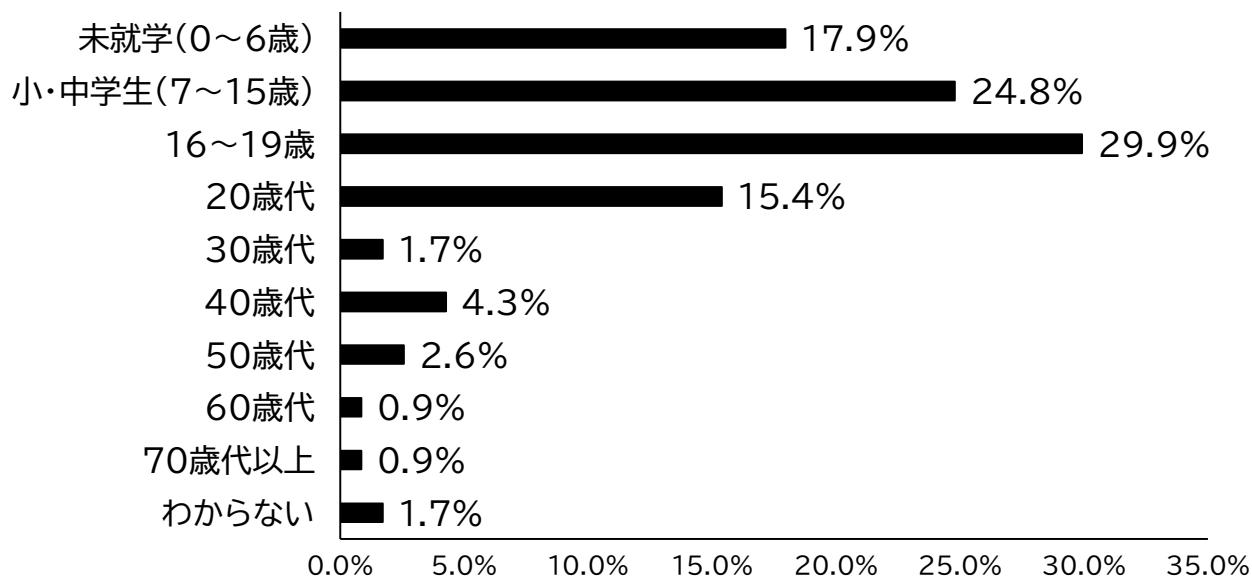
回答の選択肢	件数	%
手話で会話しない	120	52.4%
手話で会話する	109	47.6%
計	229	100.0%

2 手話で会話をする方を対象とした設問 ※問 6 で「手話で会話をする」と回答した方のみ回答

(1)手話を覚え始めた年齢(年代)

問 7 あなたが手話を覚え始めた年齢(年代)を教えてください。

結果のポイント 「16 歳～19 歳」が最も多く、29.9%。
2 番目に「小・中学生(7～15 歳)」が多く、24.8%となっている。

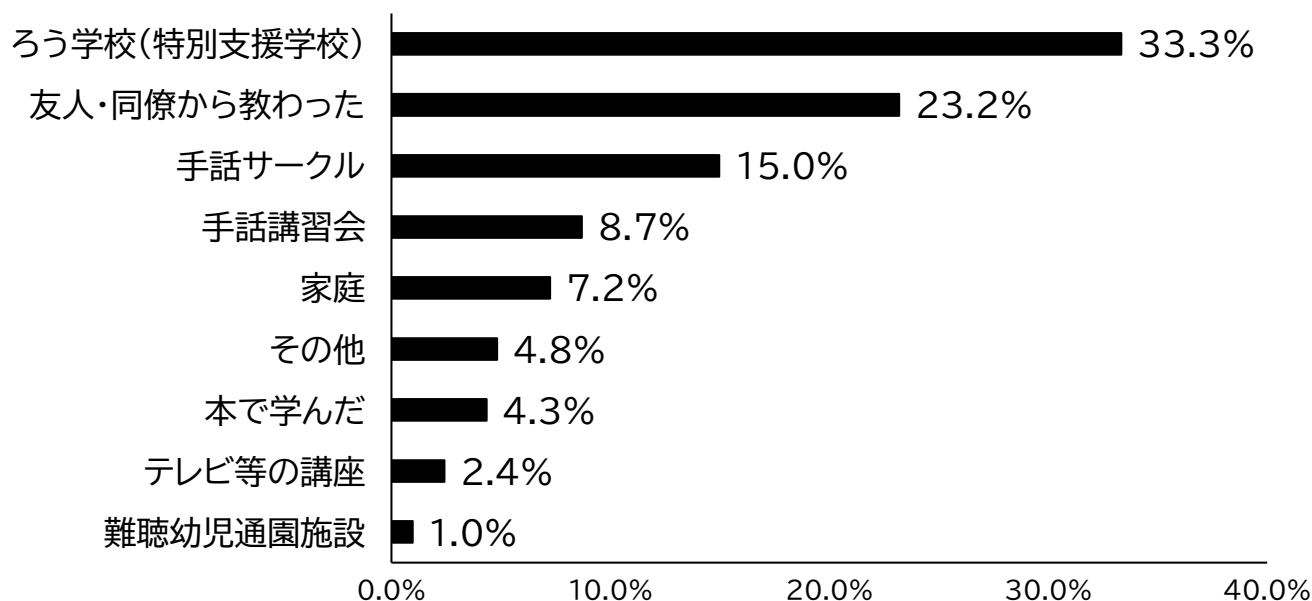


回答の選択肢	件数	%
未就学(0～6歳)	21	17.9%
小・中学生(7～15歳)	29	24.8%
16～19歳	35	29.9%
20歳代	18	15.4%
30歳代	2	1.7%
40歳代	5	4.3%
50歳代	3	2.6%
60歳代	1	0.9%
70歳代以上	1	0.9%
わからない	2	1.7%
計	117	

(2)手話を覚えた(身につけた)場所・機会

問 8 あなたが手話を覚えた(身につけた)ところはどこですか。(複数選択可)

結果のポイント 「ろう学校」が最も多く、33.3%。
2 番目に「友人・同僚から教わった」が多く、23.2%となっている。



回答の選択肢	件数	%
ろう学校(特別支援学校)	69	33.3%
友人・同僚から教わった	48	23.2%
手話サークル	31	15.0%
手話講習会	18	8.7%
家庭	15	7.2%
その他	10	4.8%
本で学んだ	9	4.3%
テレビ等の講座	5	2.4%
難聴幼児通園施設	2	1.0%
計	207	

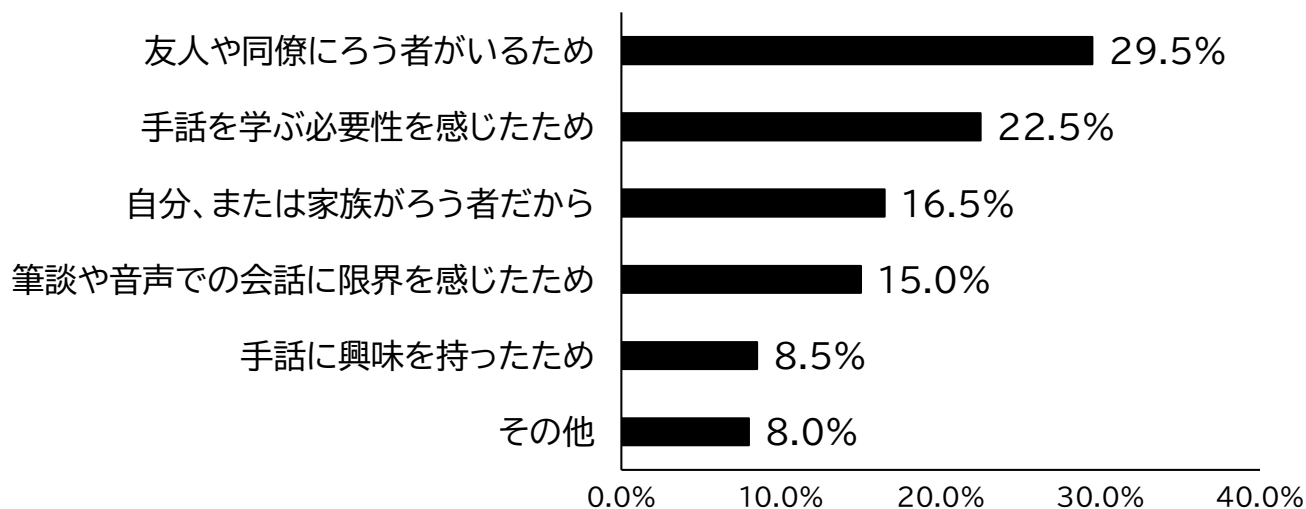
(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

- ・通っていた専門学校にたまたま手話の授業があった。
- ・YouTube の動画を見て覚えた。
- ・聾、聴問わず手話で話せる人を探して話しくった。
- ・全国手話研修センター、手話教育センター、手話劇団など
- ・小学校(難聴学級)
- ・老人ホーム

(3)手話を覚えた(身につけた)理由

問 9 あなたが手話を覚えた(身につけた)きっかけは何ですか。(複数選択可)

結果のポイント 「友人や同僚にろう者がいるため」が最も多く、29.5%。
2 番目に「手話を学ぶ必要性を感じたため」が多く、22.5%となっている。



回答の選択肢	件数	%
友人や同僚にろう者がいるため	59	29.5%
手話を学ぶ必要性を感じたため	45	22.5%
自分、または家族がろう者だから	33	16.5%
筆談や音声での会話に限界を感じたため	30	15.0%
手話に興味を持ったため	17	8.5%
その他	16	8.0%
計	200	

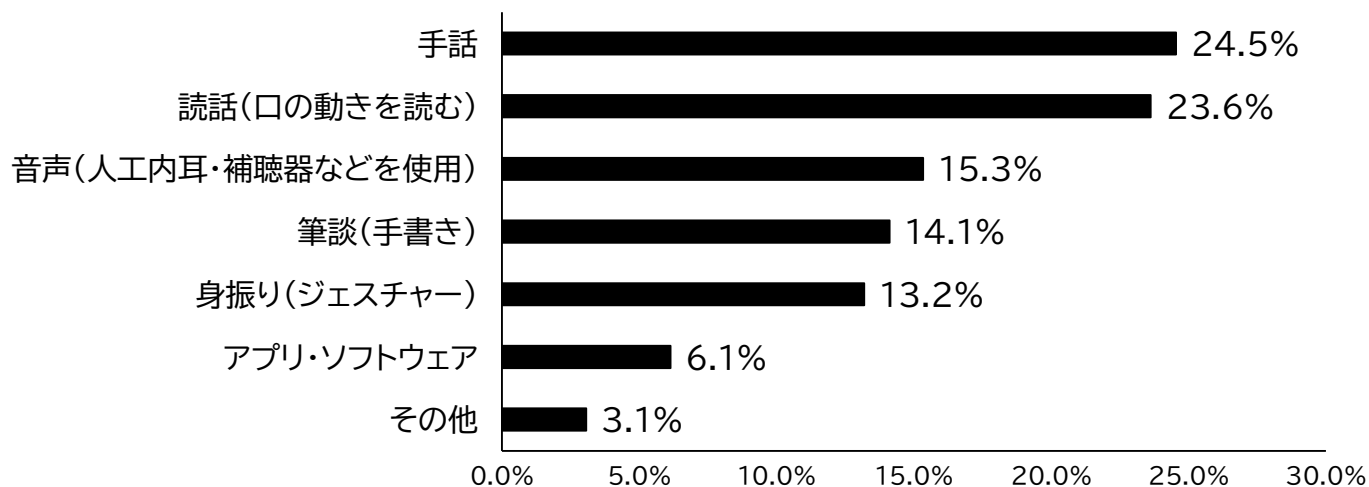
(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

- ・元奥さんのきっかけ
- ・自然と身についた
- ・手話を見て便利だと思った
- ・ろう学校に入ったから
- ・ろう学校に通うため
- ・高校受験が難しいため、聾学校へ進むことにしました
- ・高校に入るまでは手話を使わなかったが、通っていた高校は手話を使うため自然に身につけた
- ・幼～中学まで手話が禁止です。昔、手話の事知らなくて早く手話の勉強したかったです
- ・国立リハビリセンターで先輩達・同期生達の手話などを本格的に盗んで覚えた

(4)家族と会話する時の会話方法(手話で会話する人)

問 10 あなたが家族と会話するときによく使う会話方法は何ですか。(複数選択可)

結果のポイント 手話で会話をする方では、「手話」が最も多く、24.5%。
2 番目に「読話(口の動きを読む)」が多く、23.6%となっている。



回答の選択肢	件数	%
手話	80	24.5%
読話(口の動きを読む)	77	23.6%
音声(人工内耳・補聴器などを使用)	50	15.3%
筆談(手書き)	46	14.1%
身振り(ジェスチャー)	43	13.2%
アプリ・ソフトウェア	20	6.1%
その他	10	3.1%
計	326	

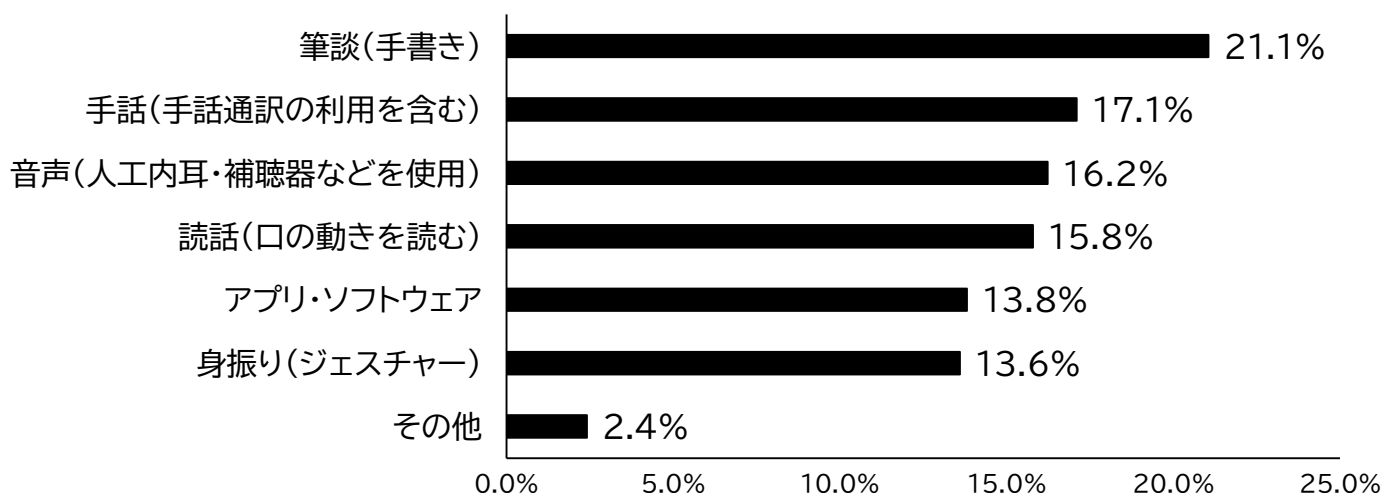
(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

- ・電話リレーサービス、遠隔手話
- ・キュードスピーチ
- ・指文字
- ・気分によって変わります
- ・私は普通に話せるので楽ですが、相手からは手話、読話、筆記を必要とします。
ろう者ではなく、中途難聴者なので手話のみではよみとれません。
- ・長年家族として生活していると相手が何を言いたいが、伝えた方がわかるようになる

(5)家族以外と会話する時の会話方法(手話で会話する人)

問 11 あなたが家族以外と会話する時によく使う会話方法は何ですか。(複数選択可)

結果のポイント 手話で会話をする方では、「筆談(手書き)」が最も多く、21.1%。
2 番目に「手話(手話通訳の利用含む)」が多く、17.1%となっている。



回答の選択肢	件数	%
筆談(手書き)	96	21.1%
手話(手話通訳の利用を含む)	78	17.1%
音声(人工内耳・補聴器などを使用)	74	16.2%
読話(口の動きを読む)	72	15.8%
アプリ・ソフトウェア	63	13.8%
身振り(ジェスチャー)	62	13.6%
その他	11	2.4%
計	456	

(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

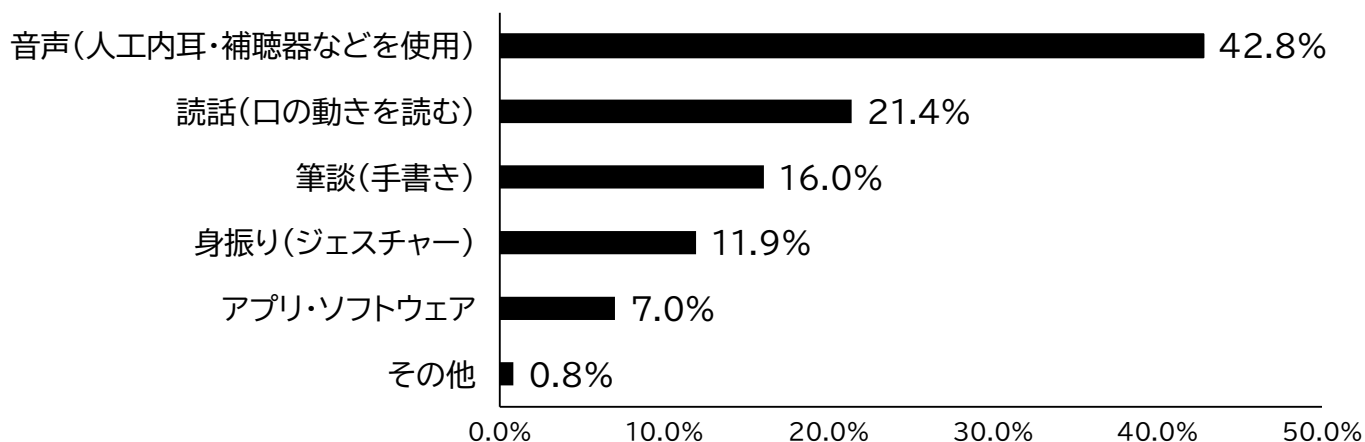
- ・FAX
- ・電話リレーサービス、遠隔手話
- ・指文字
- ・ろうの近所の友達から手まねし身振り
- ・大きな声で耳の近くで話をしてもらう
- ・あらゆる方法をコミュニケーションの手段とします。TV では字幕を必要とします。手話ではよみとれません。歩きながら筆談はできませんので、手話のできる人となら手話(かんたんな)をしながら歩けます。

3 手話で会話をしない方を対象とした設問 ※問 6 で「手話で会話しない」と回答した方のみ回答

(1) 家族と会話する時の会話方法(手話で会話しない方)

問 12 あなたが家族と会話するときによく使う会話方法は何ですか。(複数選択可)

結果のポイント	手話で会話をしない方では、「音声(人工内耳・補聴器などを使用)」が最も多く、42.8%。 2 番目に「読話(口の動きを読む)」が多く、21.4%となっている。
---------	--



回答の選択肢	件数	%
音声(人工内耳・補聴器などを使用)	104	42.8%
読話(口の動きを読む)	52	21.4%
筆談(手書き)	39	16.0%
身振り(ジェスチャー)	29	11.9%
アプリ・ソフトウェア	17	7.0%
その他	2	0.8%
計	243	

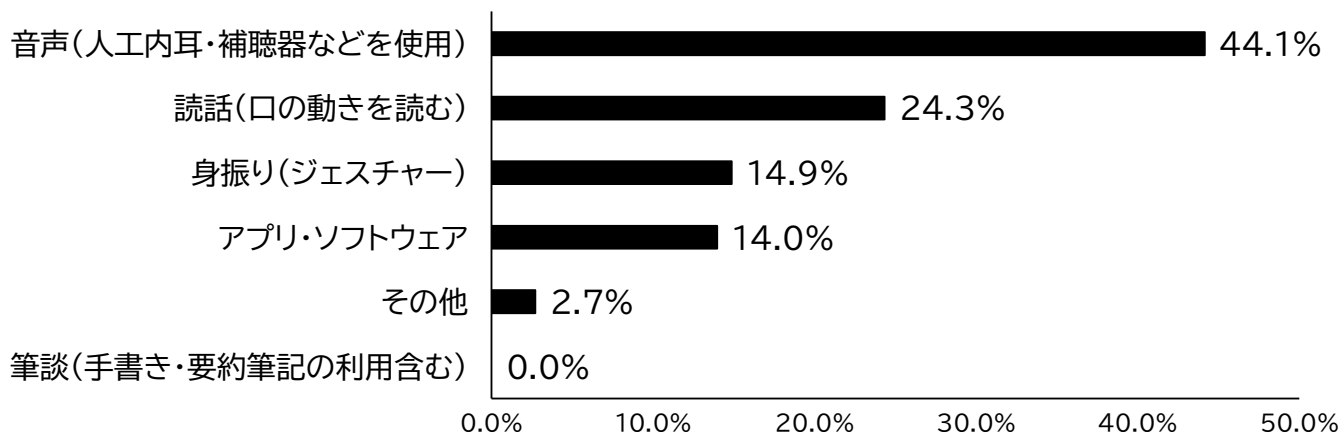
(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

・FAX(遠方の家族)

(2)家族以外と会話する時の会話方法(手話で会話しない方)

問 13 あなたが家族以外と会話する時によく使う会話方法は何ですか。(複数選択可)

結果のポイント 手話で会話をしない方では、「音声(人工内耳・補聴器などを使用)」が最も多く、44.1%。
2 番目に「読話(口の動きを読む)」が多く、24.3%となっている。



回答の選択肢	件数	%
音声(人工内耳・補聴器などを使用)	98	44.1%
読話(口の動きを読む)	54	24.3%
身振り(ジェスチャー)	33	14.9%
アプリ・ソフトウェア	31	14.0%
その他	6	2.7%
筆談(手書き・要約筆記の利用含む)	0	0.0%
計	222	

(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

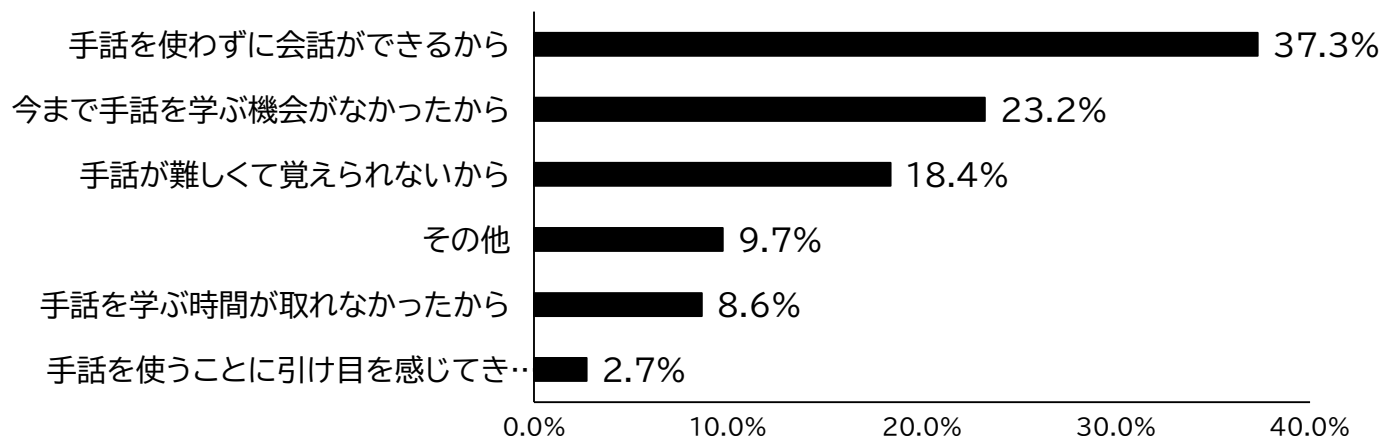
・FAX

・昭和時代はアプリとか機器はありませんでした。口話だけはきびしい。

(3)手話で会話しない理由(手話で会話しない方)

問 14 あなたが手話で会話をしない理由は何ですか。(複数選択可)

結果のポイント 「手話を使わずに会話ができるから」が最も多く、37.3%。
2 番目に「今まで手話を学ぶ機会がなかったから」が多く、23.2%となっている。



回答の選択肢	件数	%
手話を使わずに会話ができるから	69	37.3%
今まで手話を学ぶ機会がなかったから	43	23.2%
手話が難しくて覚えられないから	34	18.4%
その他	18	9.7%
手話を学ぶ時間が取れなかったから	16	8.6%
手話を使うことに引け目を感じてきたから	5	2.7%
計	185	

(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

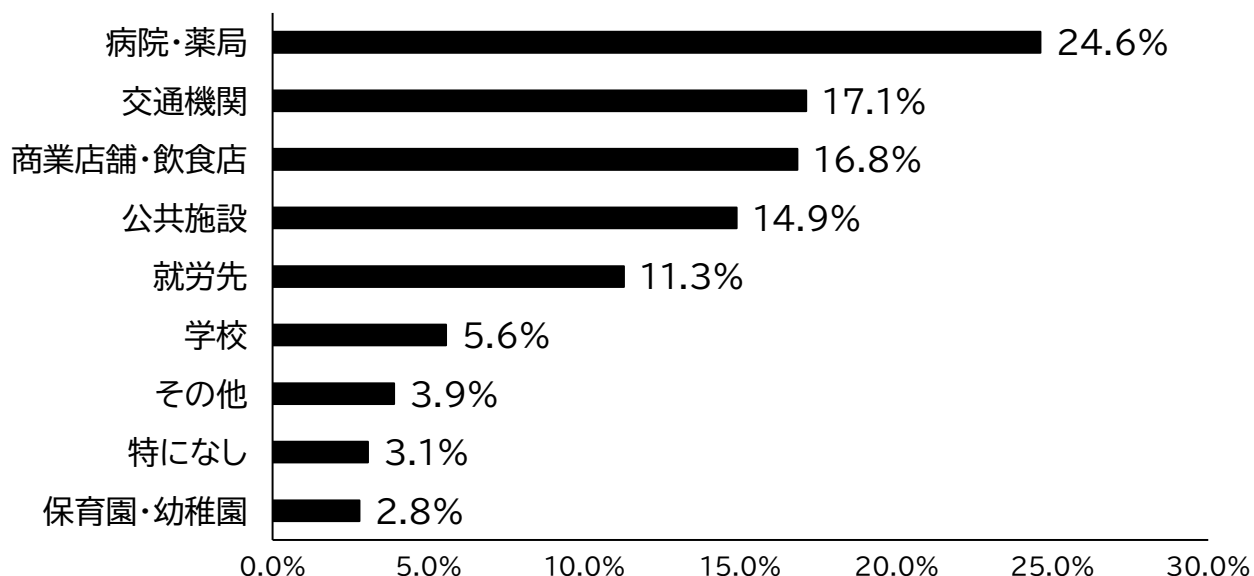
- ・年齢的に習得は難しい
- ・視覚障害もあるから
- ・他に眼病もあり、80 歳から手話は難しい。自分が手話を学んでも相手が分からない
- ・私は話すことが可能ですが、手話を必要とする人とは、手話も使います
但し、TV での手話ニュースキャスターの手話はほとんどよみとれません。事時用語は難聴者には手話のみではムリです。字幕にたよります。
- ・身近に手話を常用される方との関りが無い
- ・手話を覚えたいですが、教えてくださる場所を教えてください
- ・前の質問にも記したが、家族としては相手がなにを言いたいのか、伝えたいか欲しいかわかるようになるし、筆談で充分だったし、今後も今の状態で生きます

4 共通設問

(1) 耳が聞こえないことで困る場所

問 15 あなたが特に耳が聞こえないことで困るのはどのような場所ですか。(複数選択可)

結果のポイント 「病院・薬局」が最も多く、24.6%。
2 番目に「交通機関」が多く、17.1%となっている。



回答の選択肢	件数	%
病院・薬局	177	24.6%
交通機関	123	17.1%
商業店舗・飲食店	121	16.8%
公共施設	107	14.9%
就労先	81	11.3%
学校	40	5.6%
その他	28	3.9%
特になし	22	3.1%
保育園・幼稚園	20	2.8%
計	719	

(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

- ・集会・来客・銀行・美容院
- ・引っ越し、銀行
- ・デイサービス
- ・自宅など
- ・テレビ。ニュース
- ・市の催しに参加できない(講座や市内の散策等)
- ・講演会:町田市民フォーラム市民ホール
- ・ごらく関係(映画館、劇場等)

- ・習い事
- ・仕事先の雑談に入れない苦しみあり
- ・学校他すべて
- ・私の補聴器は少し離れると聞こえません。

(2)耳が聞こえないことによる困りごと

問 16 問 15 で回答した場所において、どのようなことに困るのか教えてください。

(自由記述:任意)

※ご意見は、類似の意見を要約・集約して掲載し、個人情報特定される恐れのある意見は非掲載としています。

また、選択肢に含まれる回答は掲載を省略しています。

聴覚障がいへの理解・配慮に関するご意見	①どこへ行っても聞こえる前提で対応されるので、聞こえないことを伝えることから始めなくてはならない(同様の意見 他 5 件)。 ②意思疎通ができていないことが多い。補聴器を使用しているが、聞こえないときにもう一度お願いしているが伝わるように話してくれない(声量など)。筆談をお願いすると面倒そうな顔をされてしまう(同様の意見 他 4 件)。 ③聞こえは一人ひとりちがいます。感音性難聴者は補聴器をつけて、声や音はきこえても言葉としては全くききとれない。伝音性の方は補聴器をつけると効果があります。きこえないからと、大声を出されても迷惑ですからやめてほしい。きこえない人の体は健常ですが、耳がきこえないことは、どんなに立派な人でもどこへ行っても何としても言葉がききとれないので不便です。難聴の種類によってことなりたちます(同様の意見 他 1 件)。 ④楽しい会話の中、沈黙状態でいるとき、何を話しているのかを尋ねると「あとで教えてあげるの」と言われ、結局は忘れられてしまう。悲しい、無念。 ⑤音響により耳鳴りや眩暈が、強く補聴器よりも手話で人と人が目を合わせて会話したくても、社会の多くの方は手話に理解がなく、使える人もほぼいない。聞こえにくいことを理解してもらえずに人と繋がれないために孤独感がつよくなる。 ⑥自分に聞こえるように話していたら、筆談で声が大きいと示してきた。
意思疎通の方法・話し方に関するご意見	①コロナの影響でマスクしてるところが多いので、マスクされると口が読めないのわからない(同様の意見 他 14 件)。 ②声が小さかったり、早口で、聞き取れないことがある。もっとはっきりと聞き取りやすく話してほしいです(同様の意見 他 6 件)。 ③相手が書く筆談の内容がよくわからないときがある。 ④よく聞こえないので、声が大きくなりがちになってしまう。 ⑤筆談やりとりする時間がかかってしまう店員とかスタッフがたくさんいます。筆談ではなく UD トークとかアプリするならいいと思いますが、苦手な人がいるかもしれません。いい方法が私としてはわかりません。 ⑥アプリ使用しても全て正確に文字変換してくれるわけではない。スマホ画面も小さく読み取れない時もありその場で理解できない事も。
補聴器・人工内耳に関するご意見	①補聴器の具合によって、声の低い人などの声が聞こえにくい(同様の意見 他 3 件) ②自分にとって補聴器が聞こえのすべてなので、周囲の音がすべて入ってしまうので、聞こえ、聞き取りには常に苦勞させられます。他人のおしゃべり雑談、BGM など、うっとおしく、ストレスになっています(お話したい相手、聞きたい音を充分にできなくなって、聞き取れなくて辛い)(同様の意見 他 2 件)。 ③人工内耳のため複数の人のいるところでは雑音やほかの人の会話が混じって聞き取れなくて困る。 ④周りの音を聞き分けることができない。(音の方角や距離とか)

病院・薬局に関するご意見	①病院・薬局では名前を呼ばれていても聞き取れず、後回しにされるのがつらい。できれば番号札などで表示していただくと助かります。(同様の意見 他 19 件) ②病院の受付で聞こえない事を伝えてても、名前を呼ばれる時には受付の方が知らん顔してて、わからなかったりする時。聞こえない人には直接伝えてほしい。(同様の意見 他 4 件) ③診察・薬は番号を表示してよかったけど、病院の会計も番号を表示してほしい。 ④医療の言葉は、専門用語のかたまりばかり。普段の生活では絶対に使わない言葉が多く、筆談でもよくわからないことが多い。(同様の意見 他 4 件) ⑤病院に行った時、先生の話が速かったり声が小さくて聞き取りにくい。聞こえないから家族のつきそいが必要(同様の意見 他 1 件)。 ⑥どの場所においても音声でのコミュニケーションでありますから難聴者には通じません。私の通っている病院の医師はパソコンに言葉を打ち込んで下さるので会話が続き助かります。このような医師がふえて欲しいです。 ⑦予約フォームがない病院と歯医者があるため自分で予約ができない。予約フォームがある病院でも、予約変更は電話になるので困っています(同様の意見 他 3 件)。 ⑧病院でも、聴覚障害なのでゆっくり話してくださいとお願いしても嫌な顔をされたりするのが辛いです。 ⑨病院で受付の人がマスクをしたまま話しかけられて、耳が聞こえないことを伝えたら、ため息され不愉快でした。 ⑩コロナ予防の関係でマスクを取ってくれないため、口話が読めない！ ⑪病院の待ち時間が長く町田市の手話通訳者を呼ぶのに気がひける(同様の意見 他 1 件) ⑫医師との会話は筆談では情報量が不十分で、手話通訳が必要になる。 ⑬手話ができない病院勤務者が多い！普通に聴こえる世の中の人々には手話は必要ないのかも。世の中の常識を変えないと無理。
交通機関に関するご意見	①電車に乗っているとき、急に止まるとアナウンスが流れるのだが、停止信号なのか緊急事態が発生したのかわからない時。(そんな時は大体 Twitter で検索して最新情報をチェックしている。)(同様の意見 他 4 件)。 ②遅延・運転見合わせなどのトラブルについて放送機器の音声では聞き取れないことが多いです。交通機関での急なトラブル、呼び出し等のアナウンスでは周囲に理解してもらうのが難しいです(同様の意見 他 4 件)。 ③交通機関は、車掌の言ってるアナウンスが聞き取れない。駅名や乗り換え案内など(同様の意見 他 2 件)。 ④交通機関で忘れ物をしたら電話問い合わせができないので仕方なく諦めています。 ⑤筆談してくれない民間バス会社がある。
民間事業者に関するご意見	①袋の有無、ポイントカード、席の選択など細かく聞かれることがある。最近はマスクをしたままの人が多く、読話もできず、音声認識アプリにも鮮明に入らない(同様の意見 他 5 件)。 ②自分から注文することはできるが、店員さんから確認など口頭だけの説明が分からない。タブレットでの注文が一番安心できる(同様の意見 他 3 件)。 ③電話しかできない会社(電気・ガス・水道)があって、どう連絡するか困った。銀行、クレジ

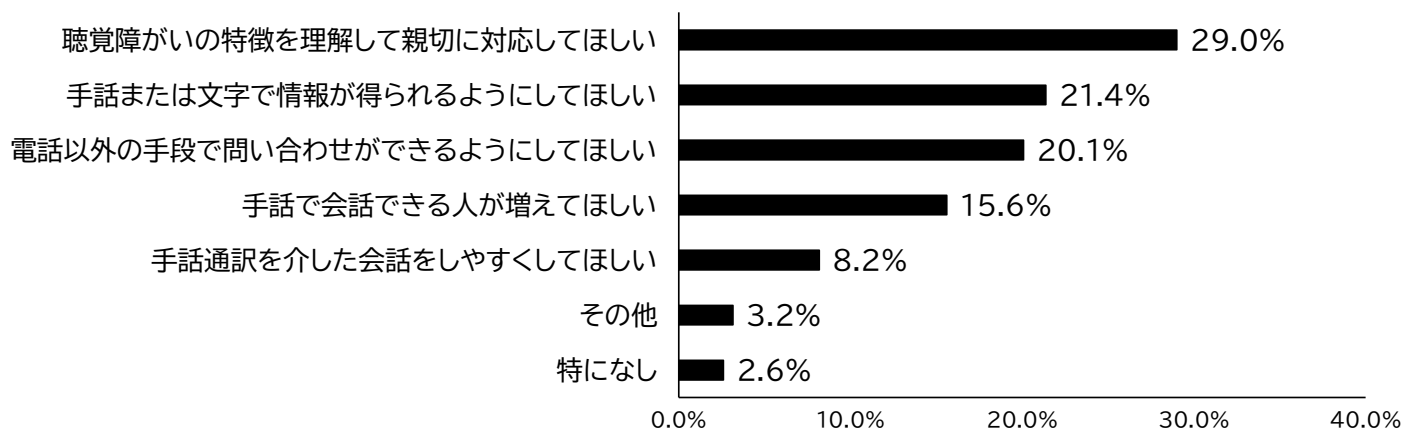
	ットカードなどの連絡で電話による本人確認が必要になって困った(同様の意見 他 2 件)。 ④廃車したとき、自動車任意保険の解約方法が音声電話のみの受付だったことがある。健聴の家族同席で行った。 ⑤住宅の建具の修理依頼について、受付が web サイトのみでメールと FAX の記入欄もあり、記入してメール連絡希望にもかかわらず、音声電話かつ留守録で返信された。 ⑥例えば銀行の中は手話ができる人がいたらいいな。 ⑦映画館の邦画は字幕がないのでセリフが聞き取れない(アニメも含む) ⑧講演会で、手話も字幕もないのは困ります。 ⑨会社たてる為の会話・手話で話せる弁護士がいないので困る ⑩自動車学校で手話出来る人がいなくて困る ⑪デパートで割引放送が流れているのを知らなかったことがある。
公的機関に関するご意見	①施設すべて文字情報、電子表示など町田市役所の場合は 2 階にも設置してほしい。 ②交番に訪ねて警察が不在だったので、その紙を見たら不在の場合は電話してくださいと書いてありました。私は TEL できなくて困難です。TEL せず交番に待機して 30 分すぎ現れなかった。あきらめて帰りました。 ③マイナンバーカードの更新の為、朝早く行きました。当日携帯で整理券の予約を取っていた。受付担当者の方が、ここで待っていて、番号が呼ばれたら窓口へ行ってくださいと案内されました。ありがとうございます。しかし、番号が来て窓口へいくと後回しにされてしまい、残念に感じました。 ④市役所の窓口でもたまにあります。。筆談がめんどくさいのか、嫌な顔されたりもしました。 ⑤免許更新の際に聞こえないのに文章を読み上げられた。
救急・災害に関するご意見	①救急の時や事故の時など緊急を要する時や話し合いの場で聴者と同等の対応がない。ろう者側が不利に感じる人が多い。手話通訳派遣もスムーズに出来ない面が多い ②運転中に救急車両のサイレンの音が聞こえづらい ③災害時(サイレン等わからない)
道路(歩行)に関するご意見	①常に家族と一緒にいて、一人になることが今はないので、家族が代筆などしてくれるが、道を歩いていて、後から車(電気自動車)が来たことがわからない。相手も耳が悪いことがわからない。 ②道路は後ろから来た車や自転車などがわからないので時々ぶつかる。
仕事に関するご意見	①アルバイトの応募をしたが、耳が聞こえないという理由で断られることがある。電話対応や接客ができないから(同様の意見 他 1 件) ②就労先ではきこえないことで発言での発表ができないため、代わりに発表しようと不本意な親切がある。 ③人と継続した関わりを築けないと理解や合理的配慮を得られず、ハラスメントを受けて仕事に行けなくなってしまいます。 ④就労先は手話通訳がいない為、自動字幕にて会議をしているが内容が掴みにくい ⑤仕事中皆が忙しいのに何度も聞けない。
学校に関するご意見	①子どもが学校へ行っているときの保護者会の会話など、連絡簿など、次の人にまわさなければならぬ連絡電話での会話。

保育園・幼稚園 に関するご意見	①保育園は今娘が通っているんですが、メール対応できるところが今の保育園で、メール対応できるところが少ない。子育てひろばとか保育園の予約するのに電話対応しか出来ないのも困る。自らメール対応で予約しても大丈夫ですよって言ってくださったのがかえで保育園だけです。
習い事に関するご意見	①習い事はサッカーだったりラグビー、空手、合気道、柔道など指導者が手話ができない、仲間とのコミュニケーションがとれない。
その他の ご意見	①私は学校へ全く行ってないので読み書きができません。そのため病院、学校、スーパーなどへ行っても意思疎通がとれないです。必ず誰かに付き添ってもらって出かけます。今は娘と一緒に友人に又は時々、通訳の方をお願いしています。(代筆娘) ②全てにおいて。音は聞こえても、言葉としての認識が難しい。例として騒音があるところで呼び出しの名前がわりにくいなど。 ③仕事においてもすべてなにもかも面倒臭いから、どうしても良い気持ちになります。なるべく、手話できる環境、どこに行っても字幕が付いて欲しい。電車事故、交通事故などあらゆることも含める。近所の付き合いも、理解してもらう必要がある。 ④周りの会話についていけず、把握のため他の人の時間を奪うことに引け目を感じる ⑤情報保障が入ってこない、輪に入れなく孤独感を感じる、聞きたくても我慢して知りたいことを諦めてしまう。 ⑥複数の人が話し合う場面(会議、ディベートなど)で困っています。 ⑦困ることに慣れてるから世の中そんなもんだと思う。書いて話が通るなら別に聞こえなくても問題はない。まーちゃんと聞こえてる人にはわからないでしょーねえ。聞こえない人と口音発声障がいある人は似たようなもんですよ。良く調べたらどうです？ ⑧手話を覚えると便利ですが、ろう者は、日本手話。難聴者は、日本語対应手話を使います。文法の組み立て方がちがうのです。難聴者は語順通りに手話をします。

(3)期待する情報保障(手話・文字情報など)の対応

問 17 問 15 で回答した場所において、聴覚障がいのある方に対する情報保障(手話・文字情報など)として、どのような対応を期待しますか。(複数選択可)

結果のポイント 「聴覚障がいの特徴を理解して親切に対応してほしい」が最も多く、29%。
2 番目に「手話または文字で情報が得られるようにしてほしい」が多く、21.4%となっている。



回答の選択肢	件数	%
聴覚障がいの特徴を理解して親切に対応してほしい	156	29.0%
手話または文字で情報が得られるようにしてほしい	115	21.4%
電話以外の手段で問い合わせができるようにしてほしい	108	20.1%
手話で会話できる人が増えてほしい	84	15.6%
手話通訳を介した会話をしやすくしてほしい	44	8.2%
その他	17	3.2%
特になし	14	2.6%
計	538	

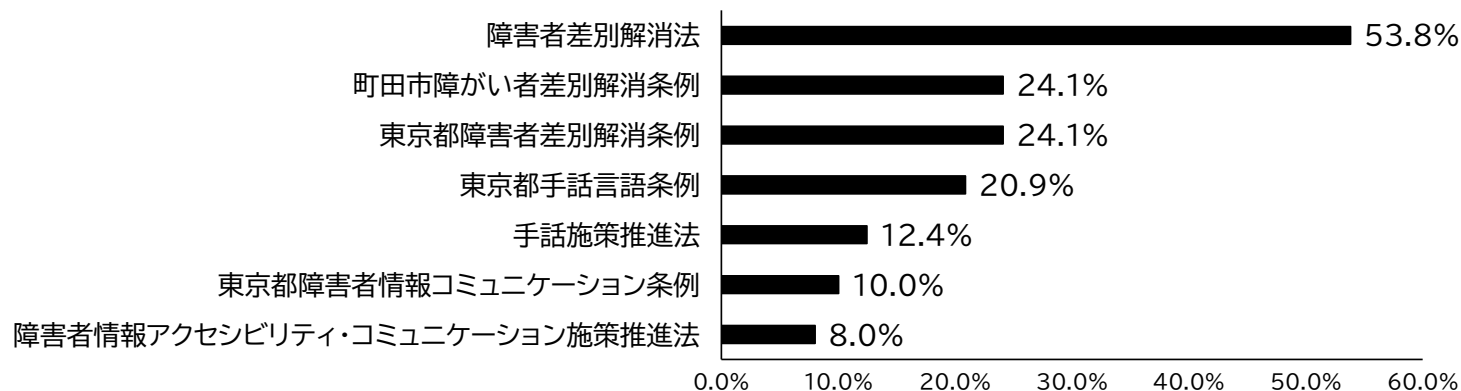
(その他の回答) ※選択肢にあてはまらないもの

- ・聞こえないとわかったとたん逃げないでほしい
- ・電話は使えないので文書が一番助かります
- ・災害・事故・医療情報を総合したシンプルなアプリを作してほしい
(病院で受診のときや駅など)

(4)法律や条例の認知度

問 18 障がいのある方への合理的配慮や、聴覚障がいのある方の意思疎通に関する法律や条例のうち、あなたが知っているものを教えてください。(複数選択可)

結果のポイント 「障がい者差別解消法」が最も多く、2人に1人が認知している(53.8%)。2番目に「町田市障がい者差別解消条例」「東京都障害者差別解消条例」が多く、4人に1人が認知している(24.1%)。

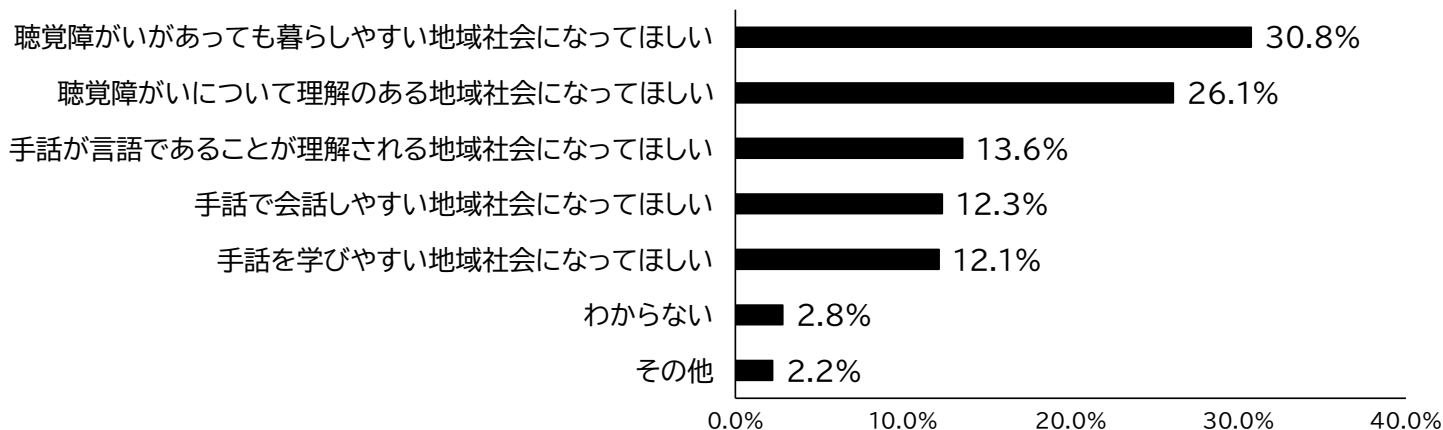


回答の選択肢	認知度
障害者差別解消法	53.8%
東京都障害者差別解消条例	24.1%
町田市障がい者差別解消条例	24.1%
東京都手話言語条例	20.9%
手話施策推進法	12.4%
東京都障害者情報コミュニケーション条例	10.0%
障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法	8.0%

(5)手話言語条例を通じた地域社会づくりへの期待

問 19 あなたは町田市が制定する手話言語条例の制定を通じて、どのような地域社会になることを期待しますか。(複数選択可)

結果のポイント	「聴覚障がいがあっても暮らしやすい地域社会になってほしい」が最も多く、30.8%。 2 番目に「聴覚障がいについて理解のある地域社会になってほしい」が多く、26.1%となっている。
---------	---



回答の選択肢	件数	%
聴覚障がいがあっても暮らしやすい地域社会になってほしい	152	30.8%
聴覚障がいについて理解のある地域社会になってほしい	129	26.1%
手話が言語であることが理解される地域社会になってほしい	67	13.6%
手話で会話しやすい地域社会になってほしい	61	12.3%
手話を学びやすい地域社会になってほしい	60	12.1%
わからない	14	2.8%
その他	11	2.2%
計	494	

(その他の回答) ※代表的なもの

- ・大人だけでなく、小中学生など子供たちに手話・聴覚障がい者を知ってほしい。
- ・きちんと伝わる手話通訳者が増えてほしい
- ・手話のみではなく、難聴者のために要約筆記を学び要約筆記通訳者が必要です。町田市では、3,4 年前に要約筆記サークルが解散後、ボランティアセンターでは要約筆記養成講座が廃止されてしまいました。残念です。
- ・手話言語を必修科目として設けてほしい(教育の場において)

(6)取り組みに関するご意見

問 20 その他ご意見などがあれば、ご自由にお書きください。(自由記述:任意)

※ご意見は、個人情報特定される恐れのある意見は非掲載としています。また、誤字・脱字と思われる箇所は一部編集をしています。

聴覚障がいへの理解・配慮に関するご意見	①聞こえにくいことを伝え、筆談してもらえますがそれも場所によります。肩身のせまい思えないでも対応してもらうことが出来る場所が多くあればと思います。 ②難聴者に対応するため、道具がお店に準備されていない、大きな声を出されても困る。メモくらい用意が必要。客は健聴者ばかりとは限らない。 ③今年 85 歳になります。少しずつ記憶があいまいになったり、忘れものが多くなってきました。この先老人ホームやデイサービスなどを利用したときに手話通訳できる方がスタッフとしてくださると助かりますが、まだまだそういう施設は少ないと思います。もしあれば紹介していただきたいと思います。(代筆娘) ④私の周囲の方々(初めて会う人も含めて)理解を示してくださることが本当にうれしいです。 ⑤聞こえづらは各人で千差万別です。どんなに補聴器その他情報ツールを使用しても話し相手の話し方が早口だったり、高音、声が細く小さいと用をなさなくなります。聞きやすい声のトーン、発音でずいぶん楽に聞きとれる場合もあります。 ⑥障がい者への暴言をしないでほしい ⑦見た目は健聴者とは変わらない。相手から暴言が多い。(交通機関、公共施設) ⑧一概に聞こえない、聞こえなくなったとか言われても混乱します。徐々に聞こえが悪くなっていつの間にか聞こえない、聞こえなくなったではなくて音としては聞こえるが言葉として聞こえない聞こえづらいのです。しつものしかたを変えたほうがいいと思います。 ⑨羽村市 HP のように広く認識して欲しいと思います。 https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000002875.html ⑩現在訪問歯科でお世話になっている者の家族です。先日、歯痛を訴え訪問医にお願いしました。今まで何回か診療を受けているドクターですが、主人との会話で言葉が伝わらなかったことがありましたら、ドクターは「こりゃダメだ」という言葉が出て本人は聞こえなかったようですが、家族としては心無い言葉に胸がつまる思いをしました。” ⑪聴覚障がい者なのに知的障がい者と誤解されることが多いので、理解のある地域社会になることを望みます。 ⑫失聴してから手話を学んだので、音声だけ、又は手話だけの情報では難しい。聴覚障がい者への社会の理解がもっと広がってほしい。 ⑬聴覚障害のみの場合は手話等でフォロー可能ですが、知的障害も合わさった重複障害の人にも配慮した社会になることを願います。手話を理解する力がない知的障害の人向けに、視覚情報絵や写真などの情報があると助かります。
手話への理解・普及に関するご意見	①娘たちと交通機関の中で手話を使っているとまわりの子供、若者がじろじろ見る。手話が聞こえない者たちの会話手段であることを知ってもらいたい。小中学校で手話学習の時間がふえるといいなと思う。 ②第一言語は「日本手話」であることを忘れないで欲しい。 ③難聴者が使いやすい日本語対応手話への理解も欲しい。対応手話を使うと手話のできる

	健聴者や手話がネイティブなろう者のなかでは片身が狭い思いがします。近年そのかきねは少しずつ低くなってきていますがまだなので。 ④自分自身、幼少時の訓練等の結果、聴力のわりには講話で流暢に会話ができるので、早くから見えない障害という自覚してしまいましたが「きこえ」「ききとり」にかんしては充分にクリアできておらず、周囲や相手とのトラブルが起きやすく、自分自身がいきっていくことにも疲れ切っています。手話について、自分自身が学生の時に必要性を考え、サークル当にも関わり習得してきました。その中で「日本手話」と「日本語対応手話」について、その相違や理解の軋轢等というものがあると考えます。ろう者ともぶつかったこともありましたが、日本手話と日本語対話手話のどちらかというより、双方が理解する日本語手話のようなものがないでしょうか。「手話」が出来るというだけで自己満足になっている健聴者が多く、聴覚障害者や手話のような面まで理解浸透が進んでいません。 ⑤手話で会話できる人が増えたら、とても嬉しいです。手話が広まることで、もっとあたたかくて平和な社会になると思います。
手話の学習機会に関するご意見	①聴覚障害＝手話ではない中途障害のため手話がわからない。学ぶ機会がなく、あっても健常者対象のため理解する早さが違って断念したことがある。出来るなら学びたい。 ②ろう者や難聴者が手話を学べる場、ろう者、難聴者、聴者関係なく集まれる場が地域にも増えて欲しい。 ③町田市に難聴者の「何度でも参加できる手話講習会」を開講してほしい。 ④制定した後、ろう者の手話指導者を成することが課題だと思いますが、人手不足という課題があります。他の障害者にも手話学習が増えていますが。 ⑤市内の聾学校、難聴学級、療育施設で口話という無駄なものを教えてる時間を日本手話を教える時間に変えて、日本手話で授業してほしい。教科書みて自分で学ぶ教育ではなく、理解ができる授業・教育をずっとしてほしい。 ⑥助詞、語尾を使わない手話が基本ですが、助詞、語尾を使用する手話が必須です。そうしないと、文章力が身に付かないし、一般人のコミュニケーションが理解しにくい事になります。筆談も、難聴障害者が書く事で、助詞、語尾を100%必須する事です。
手話通訳・要約筆記に関するご意見	①手話通訳者がろう者の手話が読み取れずわからないままにすることが多いので、やめてほしい。わからなければ「もう一度教えてください」とか「この手話は何ですか?」とか聞いてほしい。何も聞かず、わからないまま進んでしまって、話の内容がどんどん「ずれ」ていきます。不満はあります。ろう者に対して見下している通訳者がいて許せない。 ②手話通訳者の方のレベルが低いです。手話を読み取れない方が多い。もっと学べるようにしてください。ろう者に対する差別がある。理解力が足りません。 ③手話通訳派遣コーディネーターは、経験の深い手話通訳資格保有者に担ってもらいたい。 ④手話講習会を土、日曜日入れてほしい。理由は学生や会社員(特に男性)などが通えて学べるからです。身近に日常生活での手話会話ができるくらいレベルの人がいたら嬉しいです。現在の手話通訳者は女性ばかりです。男性が少ないのが残念。主人は、病院の手話通訳は女性ではなく男性がいいな。といつも言ってます。今は手話通訳依頼しないで筆談で対応しています。 ⑤要約筆記者を頼みやすくしてほしい。

手話言語条例に関するご意見	①条例のことに限っては、決して強制するものではないと示してほしい。全員同じでなければあらないと言うならば、多様性というのは必要ないと思う。絶対に不便とうこともなく、絶対に便利とうこともなくその場で合わせていけばよろしいんではないでしょうか。 ②ほとんど、何かで読んだり、ある講演できいたりした記憶が説明できるほど理解はしていない気がします。もっと勉強する必要があると思うのですが、年を重ねて忘れっぽくなりました。手話が分からない、知らない聴覚障害者もいるので、手話ばかりにフォーカスを当てるのではなく、どんなコミュニケーション方法でも通じるという世の中になって欲しいです。 ③手話言語条例について、私は反対の立場です。理由として、条文の中で手話以外のコミュニケーション手段を囲っているのであれば、『手話言語条例』という表題とは整合しないと考えためです。手話に限定した内容であれば手話言語条例でいいです。それ以外の手段を述べるのであれば、手話に限定しない、より包括的な趣旨を示す別の条例名を用いるべきだと思います。名称と内容が一致することか、条例への理解を深める上で重要だと考えています。 ④ここでいう手話言語を、日本手話に限定せず、アクセシビリティとして意思疎通やコミュニケーションをスムーズに、不安なくいきていける方法として広くとらえる姿勢がほしい。この姿勢をもつ他の市町村はたくさんある。その情報も参考にすることを期待したい。聞こえにくさを抱えて幼少期から手話を日本語と並行して獲得し生きてきた、聞こえない、聞こえにくい人も含めて対象にしてほしい。多様な生育歴やきこえの複雑さもあり、自分のコミュニケーションしやすい視覚言語として、人と繋がる社会をつくることを視点に捉えた手話言語を念頭に条約制定を望みます。 ⑤聴覚障害者が社会的に生きやすい社会(音声で解決するより文字で説明するなど)になって欲しい。また若い難聴者が目標や目的を持って生きられる社会になって欲しいです。 ⑥どのように説明すればよろしいか、難しいところですが、このアンケートにはお答えしにくく、説明なく回答することに違和感を覚えます。そのままでは相違が生じるかもしれません。また、3月1日の学習懇談会においても私の発言時間に制限がありますし、さらに手話通訳が十分に翻訳して伝わって頂くか、不安もあります。念のためですが、重要な内容をできる限りまとめて書かせて頂きたいと思っております。厚かましいお願いで恐縮ながら、以下の長文をお許してください。 まずは、手話言語条例を制定することにあたって、一番困られる、または都合の悪い方は誰でしょうか。その次に都合の悪い方は誰でしょうか。 法律は確かに人間を正しく導くために作られているが、人間の知恵と理解には限界であり、必ずしも弱い立場の人を守るとは限りません。したがって、無知のままで少しでも誤りますと、守るべきものを失うばかりではなく、さらに弱くなる恐れも考えられます。一度、制定されたとしてもその後もいくつかの改正ができると言われても最終的には権力を持つ、すなわち市議会の決断に委ねられるものではありませんか。したがって、聴覚障害を持つ市議がおられない限り、期待は薄いといえますか、気の遠くなるような戦いが今、始まったわけです。 過去では優生保護法の実在があり、表向きは国のためと宣伝しながらも、実際には長い間、障害者を苦しめました。それはマイクロアグレッション、すなわち優生思想に基づき、障害者不要論や健常者優先の視点を持ち、障害者の人権を軽視される状況で段階的に変わりな
----------------------	--

がらも障害者排除の運動が継続してきたことが黒歴史ではないでしょうか。それから、手話排除の教育と運動は優生保護法よりも長く続いた事実が一般にはあまり知られておりません。しかし、適切な法制度を整備すれば、ろう者の人権向上を期待されるかもしれませんし、改善が見られず、悪化する可能性も否めません。ただ、マイノリティの弱さといえますか、何千万人にお伝えすれば、何かを変えることができますでしょうか。それまで法整備(合理的配慮など)を通じて変化と見られるかと期待したが、偏見と差別はまだ根深く残っており、何よりも手話ブームの時代が何度もあったにも関わらず、なかなか浸透しなかったのは人間の無意識的な反応と物理的特性に関係しています。

実際にはろう者だけでなく、ろう者の家族や友人も含めて、手話のほかに音声会話や筆談などを使い分けながら、それぞれの社会環境に応じております。現代社会は確かに過去に比べて、手話を禁止される傾向が少なくなったと感じます。しかしながら、日常会話の中で手話をからかわれることが目立つのは、人格を否定する同調圧力のある社会に存在するからです。それに適応しなければ孤立するかもしれないという不安が生じ、その結果、手話を恥ずかしいものと考え、他のコミュニケーション方法を探すが、社会に取り残されないための心理であると考えられます。そのため、ろう者の意志が無抵抗な形になっていることと関係しております。これが現代社会の歪みの大きな原因であり、この状況が疑問を抱くことなく、健聴社会の秩序に無意識のうちに絶対的に従ってしまっている状況であったと考えられます。改めて、冷静に考えると、ストコーマといえますか、盲点や誤認というものは、誰からも教えて頂いたわけではなく、無意識の偏見を持ってしまうものです。例えば、ろう者の苦労や生活上の不便をお伝えすれば、社会環境が変わるとお考えになるのでしょうか。この効果は限定的であり、全国で約45万人のろう者がおり、町や市内でも数百人に満たないため、一般の方がろう者と接する機会が非常に少なく、手話の活用が十分に発揮されにくいのではないのでしょうか。

ただし、私が言いたいのはコミュニケーションの巧みさについてです。

皆さんはご存知でしょうか。相手に伝わりやすい言葉を選ぶだけでなく、無音声、つまり非言語的な伝達にも優れていると言われます。非言語とはジェスチャー、つまり身振り手振りなどの表現を指します。手話はそれらよりも高度な非言語コミュニケーションであり、文章構成が可能な唯一の伝達手段であるとともに、無限の語彙表現を持つ言語です。誠に残念ながら、効率的なコミュニケーション手段である手話が、多数派の無知や無理解により、排斥されることが誤りであるとの指摘に気づいておりません。

かつてのコロナショックの時に、コミュニケーションの難しさを感じておられましたでしょうか。感染防止のために様々な制限が設けられる中、ある小学校で給食中の会話を禁止する代わりに、「手話」を取り入れる提案があったといえます。その案には素晴らしいといえますか、とてもよくお考えになられたことと感心しておりました。しかしながら、残念なことに、あまり賛同される方が多くいらっしゃらなかったことや、手話の良さが十分に浸透しなかったのではないのでしょうか。さらに文部科学省からの推薦もなく、沈黙のまま、ただ静観されたことに関してはいかがなものか、と思っております。それは「多数派の無知や無理解により排斥されるという同調効果」という心理でしょう。つまり、マジョリティを抱く要因であり、現社会環境の変化を望まず、ご自身を変える勇気をお持ちでなかったのではないのでしょうか。

	また、コミュニケーションを減らされたことによる危険についても、ご存知でしょうか。コロナショックでそれを痛感されたことと思います。それはコミュニケーション不足によりメンタルヘルス不調であって、小さい子からご高齢の方まで多く発生いたしました。誠に残念ですが、多くの医学業界の学者が、なぜ「手話を」という発想が浮かばなかったのか、不思議に思います。あの小学校が提案されているにもかかわらず、専門の学者が実現できなかった理由を伺いたいものです。もしかすると「認知症は難聴の原因」と発表されたことに対し、矛盾を感じられたのかもしれません。 それよりもお伝えしなければならないことが多くありますが、ろう者の文化と手話に関する情報が非常に少なく、誤解を招きやすいことは確かです。しかしながら、健聴者様特有の利点として、生活の中で友人でない方のお話や何気ない場面での見えない情報を自然に耳にされ、新たな文化や異なる意見を知る機会を得られます。それがろう者には難しいため、それぞれの考え方にずれが生じるのは当然であり、むしろ、その差を縮めることは容易ではないと思われます。 そこで間違えないで頂きたいのは、手話は言語の一つです。同情や救済、福祉、ボランティア活動のためのコミュニケーション手段ではありません。手話は伝達効率が優れており、聴覚の有無に関わらず、また音声がなくとも手の動きや顔の表情などを通じて心と心を結び、人間らしさと信頼関係を築く大切な表現方法と言えます。だからこそ、ただ単に法制化すればいいというわけではなく、その過程も非常に重要です。という以前で、コミュニケーションを成立させること、全ての人々が感情を伝えられる社会環境を整えることがあらゆる差別を解消する前提として、条例を制定することが必要か、と考えますが、いかがでしょうか。したがって、手話の存在価値や必要性を理解いただいた上で、手話言語条例の制定に賛同いただくだけでなく、さらに積極的に手話を社会言語化に推進して頂けますよう、心から願っております。それが SDGs の目標達成につながるのではないのでしょうか。
意思疎通の手段に関するご意見	①ケータイ、メール、パソコン、アプリ etc、一切利用できませんので、紙文化 FAX や筆談は必須です。市役所関係でもすべてが Q コードなどにされてしまうと、取り残された人とみとめられていない気になります。 ②聴覚障がい者は文書が一番です。特に文字が好きです。 ③相手の言っている言葉がわかる機械がほしい ④手話は便利ですが、中途失聴者には外国語と同じで自然な会話ではなく、ストレスがあります。ソフトウェアなど技術の発展で、ストレスの少ないやり取りができるようになって欲しいと思います。 ⑤音声文字変換等のアプリや、器具を紹介して欲しい。 ⑥電話をかけられないので不自由が多い。代理で家族にかけて貰っても本人確認がスムーズにいかない事が多い。町田市の粗大ゴミの申し込みも初回は電話なので人に頼まなければならない。リレーサービスは利用代金が高い。電話が使えなくても困らない生活が出来るようになってほしい。 ⑦選択肢にもあったが、電話以外の手段(ホームページ・メール・FAX)で問い合わせができるようにしてほしい。子育てなどのサービスで相談をしたくても電話しかできなく相談がしづらい。もう LINE やメールも主流だと思うため IT も進歩させてほしい。

補聴器・人工内耳に関するご意見	①補聴器を使用しているが、10 年など長年使用し買い替え時があった際は新しい補聴器を保証していただけると嬉しい。” ②補聴器の故障が多く、修理費も高いです。3～5 年での修理が大変です。返信が遅くなって申し訳ありません。 ③難聴になったのは 65 歳と高齢の為、手話は出来ず補聴器を使用。しかし電話での対応出来ず対面でも聞き取り難い事多々ありますが知人達には周知せれていますのでそれなりの対応を受けています。 ④人工内耳の電池の補助金を。また人工内耳のアクセサリも補助金が出るようにして欲しい。 ⑤聴覚障がい補装具として、筆談器も追加してほしいです。消耗品です。
町田市役所に関するご意見	①庁内の案内表示の場所が悪い。混んでいるときや、人の経つ場所によって見えにくく、できれば通路の上部に変えてほしい。 ②市役所で呼び出しがモニターに番号で表示されるのは、とても助かります。町田市に引越してくる前の自治体では口頭による呼び出しでとても不便でした。 ③施設に入る時に 1 人でも手話が出来て伝わる人がいる所を探しておりますが、町田市にはそのような施設がない様なので残念です。 ④窓口対応が悪い場合があるので改善してほしい ⑤コールセンターなど電話一本化するのではなく音声や文字などを提供できるような仕組みが必要と考えます。 ⑥聴こえないことでトラブルになった時に相談できる窓口が欲しい。 ⑦近年、個人への連絡において、健聴難聴問わずに音声電話よりもメールやショートメッセージ(SMS)での連絡が確実になってきたと思います。なので、市役所といった官公庁での申請書類などの個人への連絡先や連絡方法にメール、SMS などが使えればと思います。健聴者でも音声電話での留守録や伝言は言葉が少ない、情報が少ない、など欠落が起きてしまうようです。過去に実際にあったのは健聴の家族から「市役所の〇〇課から電話」と言われたことで、これだけ？しか言ってくれない、留守録も一度聞いて消去してしまった、でした。市役所に出向いて「どのような御用件でしょうか？」と対面で聞き直して職員も？だったようですが、気付いてくださって解決したことがあります。
救急・災害時に関するご意見	①救急車、警察署、その他電話ができない。 ②何か起こった時、すぐ対応できない。(筆談する手間がかかる。スマホ操作も同じ) ③災害対策について、聴覚障害の対応できるかを考えて欲しいかなと思っています。
民間事業者に関するご意見	①映画館にも TV のように字幕をつけてほしい。(観たいと思う映画を観れない)メガネに字幕をつけられるものを渡されたが、目が疲れてしまった。途中でうまく反映されなくて内容が分からなくなってしまった経験がある。 ②手話通訳者をお願いして保険会社に電話をした。私本人がその保険会社の契約者なのに、手話通訳者の名前を保険会社が知りたがっていた。
道路(歩行)に関するご意見	①買い物に行くとき、時々、自転車や車の音が聞こえないので、怒られる時があります。ちょっと怖いです。前から来るものは避けられるけど、後ろの方は聞こえないので、怖くなる時があります。とにかく手を使って聞こえないことを伝えています。

その他の ご意見	①回答者の母です。このように聴覚障がいへの理解や配慮を深めるような活動をしてください、ありがたい限りです。ありがとうございます。 ②少しずつ暮らしやすくなりました。色々ありがとうございます。 ③中途失聴のため、手話での会話もわかりません。でも補聴器のおかげで普通に会話をすることが出来て助かっている。 ④目の悪い人に拡大鏡の購入しやすくしてほしい。高田馬場の点字図書館まで行かなくても9800円もかかるものでなくても。 ⑤日常生活用具にタブレット等を給付対象にしてほしい。 ⑥若者たちが利用する「短縮言葉」や「やばい」などはわからず困る。日本語を正しく使ってほしい。 ⑦町田市在住の聴覚障がい者、身体障がい者のために配慮や工夫をした健康診断やがん検診を町田市内で年に2回開催して欲しい。何故かという、子宮頸がんの検診の時、カーテン越しで医師と会話するのが大変難しく、困ったからです。 ⑧口がきける聴障者は軽い障害者に見られてしまう。笑ってしまえば人が近寄り、言葉を発してくるが対応できない。今後、高齢化が進む世の中、各地域にある支援センターで娯楽を楽しむ場所には行けない。聞こえない人だけの集まれるコミュニティー居場所作りが急務と思う。町田市は認知症カフェが出来ている。早く私達も聞こえない人だけの場所が欲しいです。 ⑨北里大学病院耳鼻咽喉科に一年に2回通院しています。7年前くらいに補聴器の手術をしまして会話にはだいじょうぶです。電話にも使用しています。 ⑩1人暮らしの高齢者の相談を増やしてほしい。 ⑪聴覚以外にも、知的、身体に障がいがある。聴覚障がいのみならず、どんな人も分け隔てなく暮らしやすい社会になって欲しい。 ⑫聴覚障がいの他、肢体不自由、知能遅延があるため総合的な援助が必要 ⑬様々な援助を受けながら地域のなかで一人暮らしが出来ていることにはとても感謝している。 ⑭自分から地域に出ていくことで、ありのままの自分を知ってもらえることになる。出来ることは自分で、出来ないことは助けてほしい。この伝達がなかなか難しい。自分が助けられているので障害を超えて、他の人のことも助けてあげたい。
-------------	---